

人材確保対策（事例）

(1) 看護部長経験者が語る看護職の採用と定着

社会医療法人岡村一心堂病院
経営企画室 松島 眞己

岡村一心堂病院は、岡山市の東に位置する 152 床のケアミックス病院です。創設者の岡村一博前理事長により、1988 年 5 月に安心して命を預けられる病院として設立されました。現在は 2 代目の岡村暢大理事長が引き継ぎ、古きを活かしながらも新しい病院に生まれ変わろうとしています。内科と外科は、365 日診療を行い、「かかりつけ病院」を目指しています。病棟は、急性期一般病棟、地域包括ケア病棟、緩和ケア病棟、障害者施設等一般病棟の 4 病棟で構成されています。「よりよい医療を地域の人々に」の理念のもと「がんと心臓一心堂、かかりつけ病院一心堂」をキャッチフレーズに高齢化に伴い急増するがんと心臓疾患の診断と治療に力を入れています。

以前は、看護職確保には大変苦勞がありました。2002 年看護部長になってから、まず多様な勤務形態を導入することから始めました。この時は、看護学校を訪問しても、看護就職フェアにでも「岡村一心堂病院ってどこにあるの?」と言われて、新卒に選ばれることはありませんでした。そのため転職者や再就職者の採用に焦点を当て人材確保を行いました。大きい病院を退職し応募してくる人の多くが、「中小病院だから暇であろう」、以前の病院は、「研修が多くていやだったから」、「看護研究がいやだから」、「リーダーがいやだから」等の理由でした。「そんな理由?」と思いながらも採用するしかない状況でした。そして 7 対 1 看護体制ができて看護師争奪戦が始まり、紹介会社にさらに頼らざるをえない状況が続きました。しかし昨年度からは、紹介会社を頼ることは減少し、今年度は 0 件となりました。

そして福利厚生を整えたりしながらなんとか人の確保はできましたが、当院で働いているのは、「ハード面で働き易いから。ここにいつまでもいるつもりはない。」等の声も聞かれました。「看護がすばらしいから働いている」と思ってもらうために、まず教育担当師長を任命し、教育体制を整えることから始めました。そして院内教育体制を充実させました。

理由はどうであれ、就職希望者が増えて定着率がよくなると次は、組織の形骸化が進みます。これを打破するために、院外研修の積極的参加の推奨をするなど色々な仕掛けをしましたが、活性化のためには、やはり新卒が入職することが必要と考えました。新卒の応募を増やすには、

まずは当院を知ってもらうことが一番と考え、実習を受けることを決めました。実習を受けるためには、教え・育てる力が必要になります。そこで中堅職員が実習指導者講習会やファーストレベル講習会等への受講ができる体制を整えました。

実習を開始して6年ほどして成果が現れ、新卒が1人、2人と増えました。

新卒が増えると、今度は卒後教育の充実が必要となり、教育担当師長を中心に卒後教育に取り組み、フォローアップもしっかりする体制が確立し、5人程度の新卒が入職するようになりました。「なんだ、たったの5人?」と思われるかもしれませんが、当院にとってはすごいことなのです。

今年4月より看護部長を退任し、経営企画室に入ることで全体を俯瞰して見える立場となりました。そして思うことは、看護職だけに焦点を当てて考えるのではなく病院全体で新入職員を支えることが必要であると考えます。そして今働いている人が楽しく働いていれば、新入職員も楽しく働けます。

そのために岡村理事長のリーダーシップのもと、色々な取り組みを行っています。

昨年1年間、自ら手上げをした職員で「自分たちで働きたい職場をつくろう」プロジェクトに取り組みました。そして5月の看護の日のフェアは、マンネリ化から脱却し、医局長を中心に、これも自ら手上げたメンバーで、地域のお店、消防署、警察署を巻き込んだ大変すばらしいイベントができました。そして自分達で経営を考えるワーキングチームも発足しました。このワーキングチームの特徴は、役職者ばかりの構成でないことと多職種協働に重きを置いてスタッフが職域を越えて、横断的に選任したことにあります。また全体朝礼での副主任以上の5分間スピーチが、昨年より開始され、次が入職1年目、そして今入職2年目のスピーチが始まっています。働いているだけではわからないそれぞれの一面が知れ、これをきっかけに会話が弾み、大変よい取り組みと考えています。

また昨年新規につくられた広報部が、新入職員の紹介や、院内外でのできごとを共有できるよう院内報を充実し、ホームページの刷新も行いました。これらの情報発信は、リアルタイムで行われます。そのため新入職員紹介も入職後間もない時期に行われるので「あの人誰?」がなくなり、認知度が上がり、新入職員も組織に入りやすいと感じています。このような取り組みをすることで、就職希望者の見学が増えるとともに、入職に結び付くことが多くなりました。そして当院で実習を行ったことをきっかけに、「就職したい」と言って下さる学生が出始めたことは、大変嬉しいことです。

当院よりも看護職がどんどん集まる病院はたくさんあります。そのような病院を参考にしながら、当院にできることを見つけながら、これからも看護職に選ばれる病院を目指して行きたいと思います。